回　　想

遠藤　貫中

早いもので大正十五年（昭和元年）三田義正先生岩手中学校創立以来七十八年の歳月が経過いたしました。爾来卒業生数一万余名、各界において活躍しておられますことは慶賀のいたりです。今回新五期生記念誌刊行計画あり何か原稿をとの依頼をいただき光栄でもありまた困ったことでもあり、あげくのはて回想二、三でご勘弁いただくことに致します。

1、岩手中学校授業のスタート

場所は岩手公園の下、中津河畔今の杜陵小学校の場所に所在の盛岡尋常高等小学校分校教室であった。当時剣道の島軒十次郎先生、竹刀を持って剣道の基本指導が印象に残っております。ここにおること十日位で大沢川原、現在の岩手女子高等学校々舎に移転。教育は一日たりといえども忽せにすべからざるの感あり。さて、大沢川原に移転いたしましたらその校舎の一部を盛岡農学校の生徒も使用していた。農学校の生徒との間には別に仲が良かったということも無かったが年齢の相違のためかトラブルも無く過しました。想い出の中に残っているのは校舎の中庭にブドウの木がありその実をとって食べたのは岩中とか農学校とかのごたごたがあったことです。

当時の大沢川原校舎周辺は農学校の教育実習地であり、三月十日の陸軍記念日には雪の中軍事教練の演習地でもありました。今は、商店街と化し進歩開発の偉大なるは印象的です。

2、紫波町古館所在城山は岩中学校林

普通科の学校に学校林とは奇異な感を受けるが岩中歴代理事長山を愛し現に岩手郡玉山村に川又山林、陸前高田に学校林、盛岡市根田茂に学校林を所有しておる。

前述の如く歴代理事長山を愛し特に初代理事長三田義正翁は紫波町城山に杉・桜・つつじを植栽し成育を見ている。町民の憩いの場としての桜の一部は岩中生徒の植栽によるものである。

更に一言すれば、古舘城山は昭和三年十月陸軍大演習の折天皇陛下御野立の地であり、それを記念し、三田義一二代理事長その地を岩手中学校に寄贈された。昭和十五年この地を記念するため海軍大将米内光政揮亮による記念碑が建立された。碑文にいわく「駐蹕の跡」「陛下乗馬のひづめのあと」昭和五十九年より三ヶ年に亘る紫波町の要請により三田義清三代理事長、城山を紫波町に譲渡し現在「城山公園」としてその桜は広く県民に親しまれている。紫波町へ譲渡の城山の代替地は前述せる陸前高田の学校林であり、盛岡所在根田茂学校林もその代替地である。岩手郡玉山村所在川又学校林は二代理事長三田義一氏の寄贈によるものである。

生徒諸君は、郷土の自然を守り紆余曲折することなく成育する若木の如く誠実な人材たらんことを念じている。

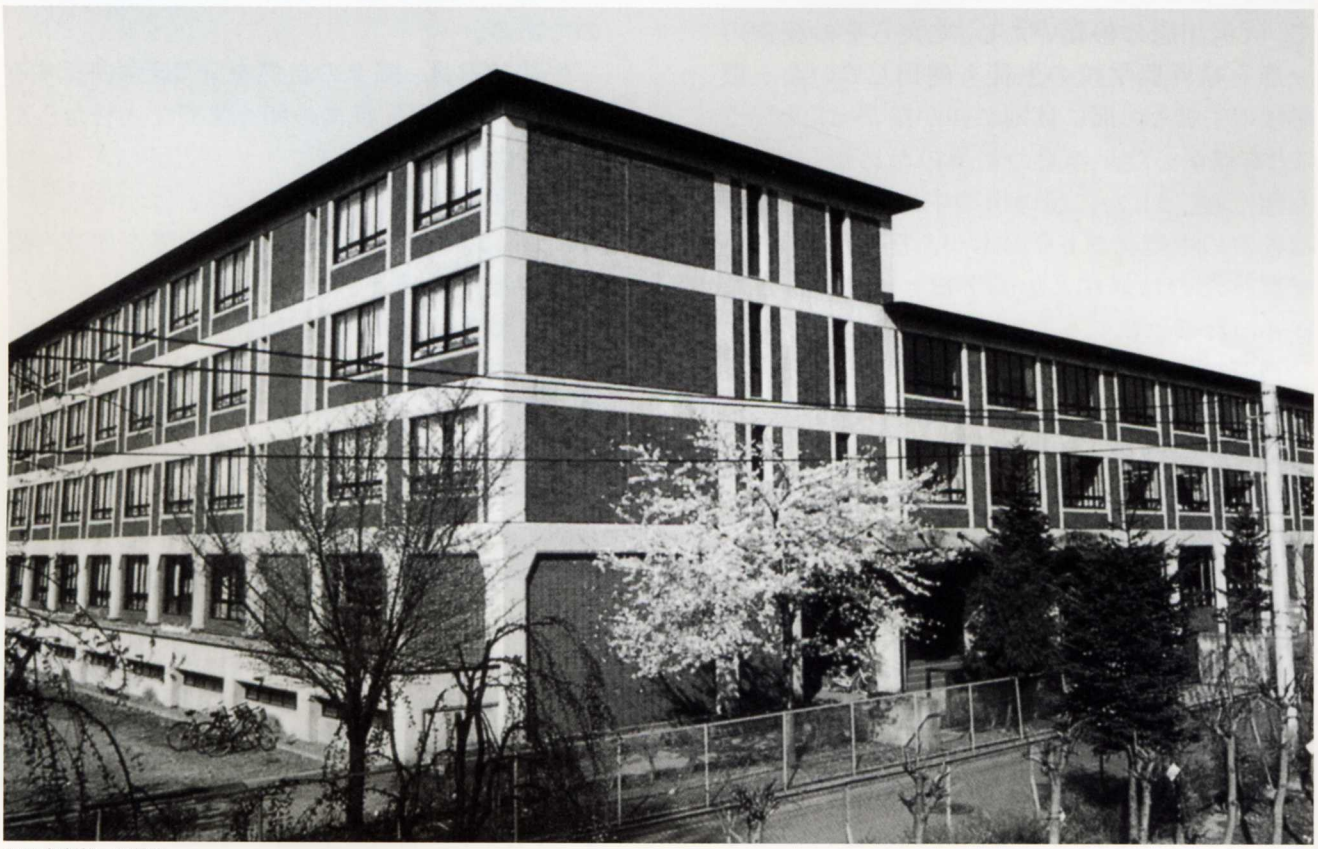
3、校旗樹立記念日の建立

昭和二年九月岩手山山頂に校旗を樹立、校運の隆昌を県下一の雄峰岩手山山霊に祈念した。これを記念する為山頂に校旗樹立記念碑建立の計画が練られ理事長をはじめ教職員生徒一同、一週一銭の寄付金貯金をして、時を待ったのである。昭和四年になり鈴木卓苗校長は島軒十次郎教師に九月五日までに事業完了するよう命じた。島軒教諭岩手山神社宮司や石工川村芳太郎と協議し材料石は運搬の関係上、山頂近くから調達することになった。

川村外三名が工事に取り掛かったのは八月十五日であった。八月二十三日には山頂300米あたりで材料石の荒取りが完了している。八月二十七日迄には長さ十一尺五寸、巾二尺、厚さ一尺六寸の石碑が仕上がった。

碑文は鈴木卓苗校長が揮毫し、「皇風永扇校運隆昌」。建立作業は九月十一日、当日は二百二十日の厄日に当り心配であったが、一大決心のもと決行と決めたのであった。九月十日社務所一泊四年生の高橋兵吉、島軒教諭、作業人夫三人、一時山頂に向かった。天候悪化苦労に苦労を重ね午後五時奥宮に到着、翌九月十一日午前三時百名の登山隊が先発隊のあとを追った。ところが午前九時二百二十日の厄日にもかかわらず快晴となった。早速碑石運搬の作業に取り掛かる。百余名の人員が引綱をとると巨大な石があたかも生き物の如く動き出した。四十分位にて三〇〇米余の距離を引きあげ無事建立地点に達した。石工と人夫が石碑建立に従事、記念碑建立は正午完了。

校旗は学校の象徴である。これを高峰の霊山に建立せるは本校の先途が岩手山の如く常に堂々たらんことを祈念するためである。(記事石桜五十年史参考)



S.53年新築　現校舎